

## 第3章 課題の整理

上位・関連計画、関連事業の進捗状況、市民意向を含む鶴崎駅周辺の現況を踏まえ、本地区の整備に向けた課題を以下に整理します。

### 1. JR 鶴崎駅周辺に関する課題

#### 課題①：交通結節機能の改善

- JR 鶴崎駅の駅前広場には、タクシー乗降場や駅前駐輪場及び一般車用駐車場がありますが、路線バスが停車できるスペースがありません。
- 歩道幅員が狭く、段差があるなどバリアフリー対策が十分ではありません。
- 駅のロータリーが小さいのでバスが入れず、鉄道から他の公共交通への乗継がしづらい状況となっています。また、送迎スペースや駐車場等が少なく、自動車への乗継がしづらい状況となっています。
- JR 鶴崎駅から（裏）鶴崎駅バス停（県道鶴崎停車場線）まで約 150m、鶴崎駅バス停（国道 197 号）まで約 300m離れており、利用しにくい状況となっています。

#### 課題②：駅周辺の環境改善

- 県道鶴崎停車場線は中央に緑地帯のある駅前の大通りですが、シンボル軸となる沿道景観が形成されていません。
- 駅前に買い物等ができる場所が少なく、人が集まれる空間が少なくなっています。
- 駅周辺の南北市街地の往来が難しい状況となっています。

### 2. 鶴崎支所周辺に関する課題

#### 課題①：鶴崎支所周辺の環境改善

- 鶴崎市民行政センターは、こどもルームや図書室などがあり、多くの人々が訪れる施設となっているとともに、公民館や鶴崎公園の改修等も進められ、拠点として整備されていますが、人の流れがセンター内で完結しており、周辺への回遊性が乏しい状況となっています。

### 3. 交通ネットワークに関する課題

#### 課題①：自動車の渋滞緩和

- 国道 197 号は交通量が多く、対象地区東側の鶴崎橋付近が慢性的に渋滞しています。また、鶴崎駅入口交差点と中鶴崎 2 丁目交差点は、主要な渋滞箇所となっています。
- JR 日豊本線を横断できるのは 4 箇所に限られており、平面交差（踏切）の箇所や幅員が狭い箇所もあり、結果として市街地が南北に分断されています。
- 市道鶴崎三佐線（都市計画道路 寺司三佐線）の平面交差（踏切）のため朝夕の渋滞が発生し

ています。

#### 課題②：自転車の利用環境の改善

- JR 鶴崎駅を利用する方の多くは、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所（自転車収容台数約700台）に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。
- JR 鶴崎駅では自転車での利用が多くなっていますが、周辺の道路には自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていません。

## 4. 歴史文化・自然環境に関する課題

#### 課題①：現状のニーズにあった公園施設の更新

- 子育て世代、高齢者、高校生等の利用ニーズにあてない街区公園が存在します。
- 木々が生い茂り、見通しが悪い街区公園も存在します。

#### 課題②：乙津川や大野川等の河川敷の有効活用

- 清掃、草刈、歩道などウォーキングやサイクリング等を促す環境が十分に整っていません。

#### 課題③：鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

- 鶴崎踊の解説板やモニュメント、社寺や毛利空桑記念館など、鶴崎地区の歴史文化を伝える資源が、来訪者に気づかれにくい状態です。
- 歴史等の拠点となる施設がなく、地域の情報発信がしづらい状況になっています。
- 駐車場が少ないなど、観光客等が来訪しづらい状況になっています。
- 「空桑思索の道」の歩行者通行空間には、良好な沿道景観が形成されていません。
- 古くから伝わる行事やイベントについて、将来にわたって地域の歴史や文化が継承されていくか懸念されています。

#### 課題④：歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

- JR 鶴崎駅から鶴崎市民行政センターと、歴史文化資源や鶴崎公園等をつなぐ道路には歩道がないところが多く、街灯や休憩できるベンチも少ないなど、回遊しやすい歩行空間が十分に整っていません。

## 5. 防災まちづくりに関する課題

### 課題①：洪水・津波等の災害への対応

- 対象地区のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、最大洪水時には大半のエリアで 3～5m の浸水が想定されています。
- 地区内には、国道 197 号沿道をはじめ、津波避難ビルに指定される建物が多くありますが、南東部を除くエリアは、別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。また、西端部分や鶴崎公園の一部は、南海トラフを想定震源とする地震の津波浸水想定区域に含まれています。
- 更なる災害発生時の避難場所の確保や情報周知の徹底、避難訓練等の定期的な実施が求められています。

鶴崎駅周辺の課題図





鶴崎駅周辺の課題図<総括>

1. JR鶴崎駅周辺に関する課題

課題①:交通結節機能の改善

- JR鶴崎駅の駅前広場には、タクシー乗降場や駅前駐輪場及び一般車用駐車場がありますが、路線バスが停車できるスペースがありません。
- 歩道幅員が狭く、段差があるなどバリアフリー対策が十分ではありません。
- 駅のロータリーが小さいのでバスが入らず、鉄道から他の公共交通への乗継がしづらい状況となっています。また、送迎スペースや駐車場等が少なく、自動車への乗継がしづらい状況となっています。
- JR鶴崎駅から(裏)鶴崎駅バス停(県道鶴崎停車場線)まで約150m、鶴崎駅バス停(国道197号)まで約300m離れており、利用しにくい状況となっています。

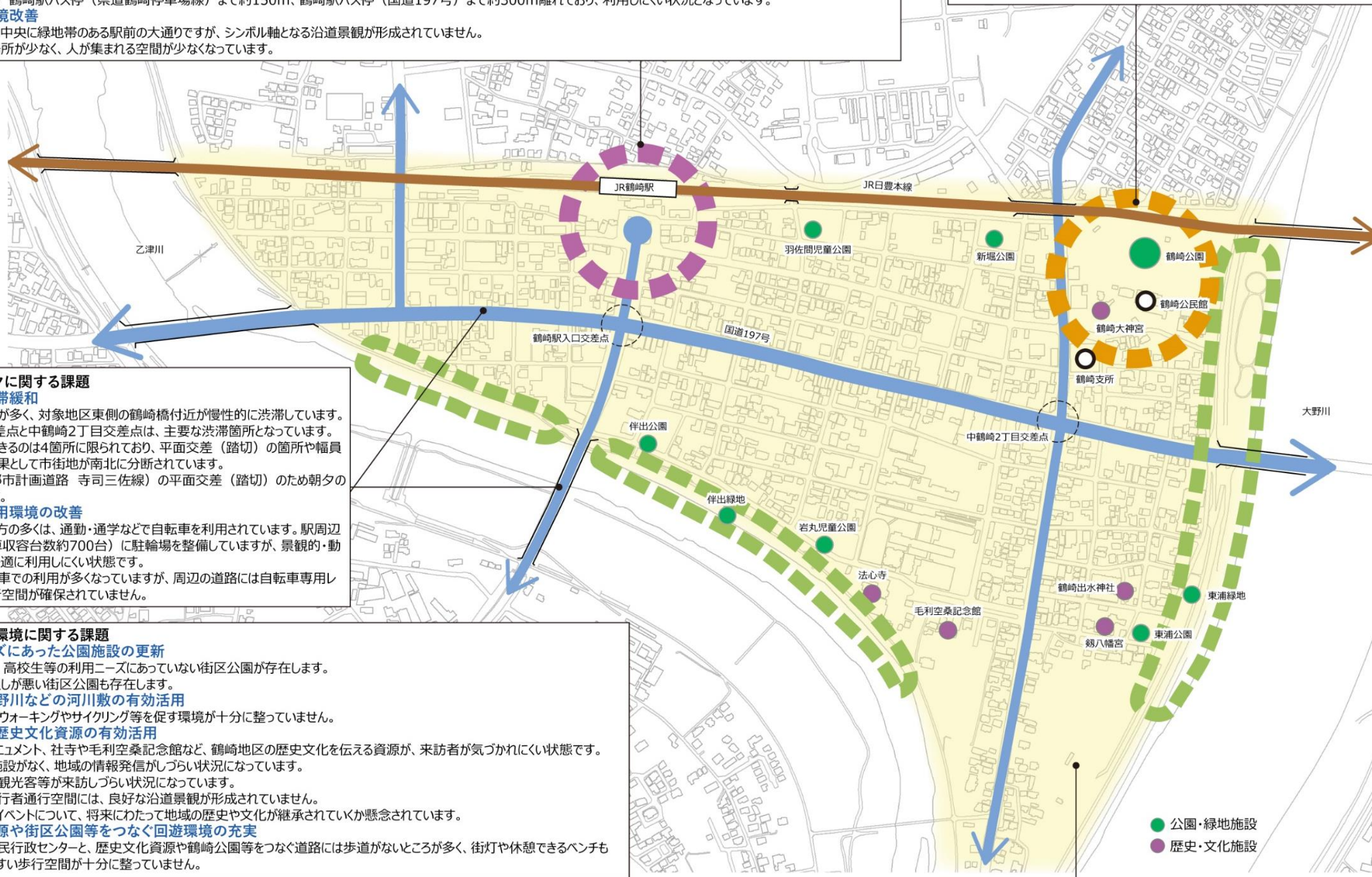
課題②:駅周辺の環境改善

- 県道鶴崎停車場線は中央に緑地帯のある駅前大通りですが、シンボル軸となる沿道景観が形成されていません。
- 駅前に買い物できる場所が少なく、人が集まれる空間が少なくなっています。

2. 鶴崎支所周辺に関する課題

課題①:鶴崎支所周辺の環境改善

- 鶴崎市民行政センターは、こどもルームや図書室などがあり、多くの人々が訪れる施設となっているとともに、公民館や鶴崎公園の改修等も進められ、拠点として整備されていますが、人の流れがセンター内で完結しており、周辺への回遊性が乏しい状況となっています。



3. 交通ネットワークに関する課題

課題①:自動車の渋滞緩和

- 国道197号は交通量が多く、対象地区東側の鶴崎橋付近が慢性的に渋滞しています。また、鶴崎駅入口交差点と中鶴崎2丁目交差点は、主要な渋滞箇所となっています。
- JR日豊本線を横断できるのは4箇所に限られており、平面交差(踏切)の箇所や幅員が狭い箇所もあり、結果として市街地が南北に分断されています。
- 市道鶴崎三佐線(都市計画道路 寺司三佐線)の平面交差(踏切)のため朝夕の渋滞が発生しています。

課題②:自転車の利用環境の改善

- JR鶴崎駅を利用する方の多くは、通勤・通学などで自転車を利用されています。駅周辺には、2箇所(自転車収容台数約700台)に駐輪場を整備していますが、景観的・動線的な問題があり、快適に利用しにくい状態です。
- JR鶴崎駅では自転車での利用が多くなっていますが、周辺の道路には自転車専用レーンなどの自転車走行空間が確保されていません。

4. 歴史文化・自然環境に関する課題

課題①:現状のニーズにあった公園施設の更新

- 子育て世代、高齢者、高校生等の利用ニーズにあっていない街区公園が存在します。
- 木々が生い茂り、見通しが悪い街区公園も存在します。

課題②:乙津川や大野川などの河川敷の有効活用

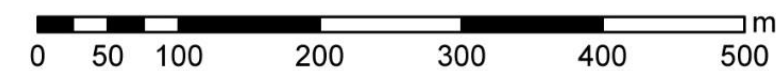
- 清掃、草刈、歩道などウォーキングやサイクリング等を促す環境が十分に整っていません。

課題③:鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用

- 鶴崎踊の解説板やモニュメント、社寺や毛利空桑記念館など、鶴崎地区の歴史文化を伝える資源が、来訪者が気づかれにくい状態です。
- 歴史等の拠点となる施設がなく、地域の情報発信がしづらい状況になっています。
- 駐車場が少ないなど、観光客等が来訪しづらい状況になっています。
- 「空桑思索の道」の歩行者通行空間には、良好な沿道景観が形成されていません。
- 古くから伝わる行事やイベントについて、将来にわたって地域の歴史や文化が継承されていくか懸念されています。

課題④:歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実

- JR鶴崎駅から鶴崎市民行政センターと、歴史文化資源や鶴崎公園等をつなぐ道路には歩道がないところが多く、街灯や休憩できるベンチも少ないなど、回遊しやすい歩行空間が十分に整っていません。



5. 防災まちづくりに関する課題

課題①:洪水・津波等の災害への対応

- 対象地区のほぼ全域が浸水想定区域に含まれており、洪水時には大半のエリアで3~5mの浸水が想定されています。
- 地区内には、国道197号沿道をはじめ、津波避難ビルに指定される建物が多くあります。南東部を除くエリアは、別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。また、西端部分や鶴崎公園の一部は、南海トラフを想定震源とする地震の津波浸水想定区域に含まれています。
- 更なる災害発生時の避難場所の確保や情報周知の徹底、避難訓練等の定期的な実施が求められています。